

(1)児童の体力の現状

○どの学年も、前年度の記録を上回っており、学年ごとに体力の向上が見られる。また、「50m走」においては、男女ともに、ほとんどの学年が前年度や県平均を上回る結果となった。

○令和元年度の6年生の水泳運動「25m完泳率」が79%となり、前年度を1%上回る結果となった。教師の個に応じた手立てが有効であり、それによって児童が目標に向かって努力した成果であると考えられる。

●ほとんどの学年で「長座体前屈」の記録が前年度や県平均に比べ、男女ともに下回る結果となった。また、女子のソフトボール投げの記録も前年度や県平均を下回っている。

●令和元年度の4年生の器械運動「逆上がり達成率」が47. 4%となり、前年度の64%を大きく下回っている。

●学年や男女間で運動をする児童とそうでない児童が見られる。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

○運動が好きと肯定的にとらえる児童が5年生男子95. 2%、女子86. 7%と高い値を示しており、全校でも多くの児童が運動することを楽しいと感じている。

○長座体前屈(男女)、ソフトボール投げ(女子)の記録を除いて、ほとんどの学年で前年度の記録を上回っており、1年間を通じた体力の向上が見られた。

○●例年本校の課題となっている20mシャトルランについて、前年度や県平均よりも上回っている学年が見られるものの、5年生は県平均を10ポイント以上下回っている。持久力を高める取り組みが必要である。

●(1)で示したように、「長座体前屈」の記録が低く、柔軟性に課題が見られる。器械運動を行う時期に限らず、日頃から児童の柔軟性を高めていく取り組みが必要である。

●女子のソフトボールの結果から「投げる力」を高めていく必要がある。(男子の結果においては、どの学年も前年度の記録を上回ってはいるが県平均を下回っている。)

●「逆上がり達成率」が低いという結果を受け、低学年の頃から継続的に鉄棒運動に親しむ機会が必要であ

(3)令和2年度の取組【対策】

1. 学校における取組

・令和元年度の3学期にジャベリックボールや発泡スチロールボール等を活用した投げる力を高める運動方法について示した。児童が楽しみながら正しいフォームを身につけ、投げる力を高めるようにしていきたい。

・一定時期だけでなく、年間を通して器械運動、特に鉄棒運動に取り組む。そのために、縄跳びカードや体づくりチャレンジカード(鉄棒、上り棒、雲梯を利用したカード)を他教員に年度初めに示し、活用していく。

・今年度も体育委員会を中心に、様々なスポーツイベントを行い、それに向けてクラスごとに団結して運動しようとする姿が見られた。令和2年度もつきたい力を獲得でき、目標に向かって、楽しみながら運動に取り組むことができるイベントを児童とともに考えていきたい。(なわとび大会、マラソン大会、ドッジボール大会等)

2. 地域や家庭との連携による取組

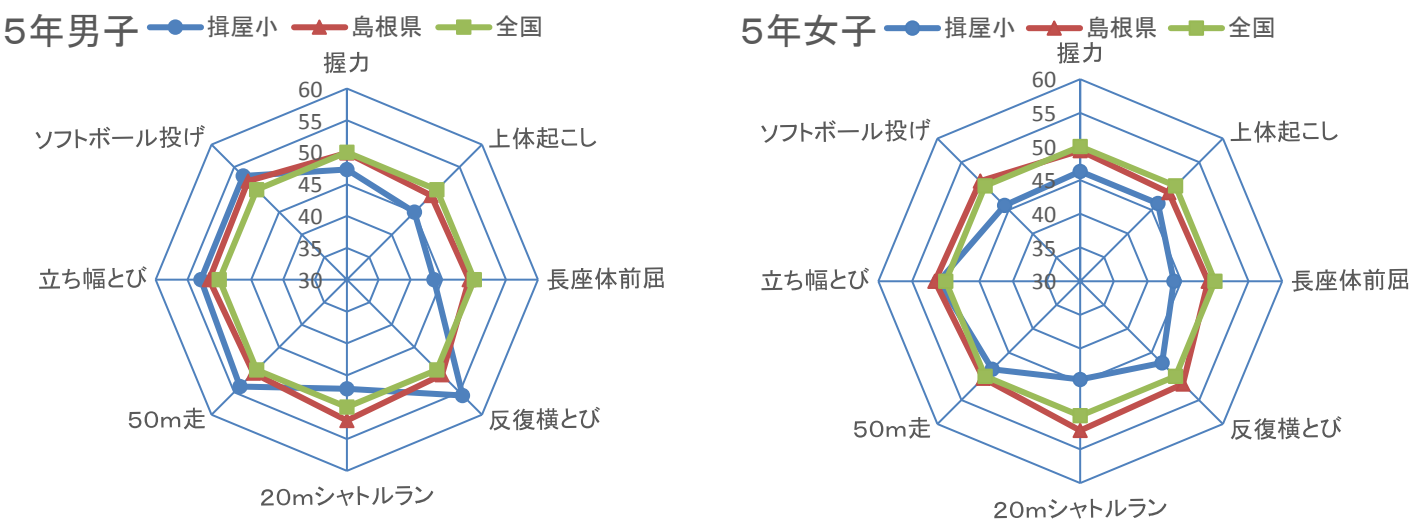
・体力テストの結果をまとめたものや日々の体育や休み時間の様子を学級だよりや懇談等で保護者へ伝えることにより、児童の体力・運動について関心をもってもらい、家庭での過ごし方について考えるきっかけとなるようにしていく。

3. 体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組

・PTA主催の「頑張りカード(睡眠、食事、メディア)」の取り組みに合わせて、自分自身の身体や健康の大切さについて考え、規則正しい生活を意識することができるよう授業で取り扱ったり、声かけを行ったりする。

調査実施者数(人) 1年(男子27・女子21) 2年(男子25・女子18) 3年(男子18・女子32)
4年(男子24・女子29) 5年(男子21・女子30) 6年(男子29・女子22)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

